第４部

「資料編」

Ⅰ　学習活動の実施回数と参加人数、サポーター参加人数を掲載します。学習者参加人数のところでは、立命館大学で実施した学習活動のほかに、社会福祉法人「市原寮」で実施している学習活動の参加人数も掲載してあります。

【学習活動の実施回数】

(2014 年度までの回数)

表 4-1.　年間学習回数

2006	68
2007	84
2008	80
2009	73
2010	89
2011	80
2012	85
2013	82
2014	82

【学習者の参加人数】

表 4-2.　学習への参加者数

	立命館	市原寮
2006	55	10
2007	84	14
2008	89	17
2009	92	17
2010	94	20
2011	87	17
2012	79	25
2013	58	28
2014	61	34
2015	62	20

【サポーターの参加人数】

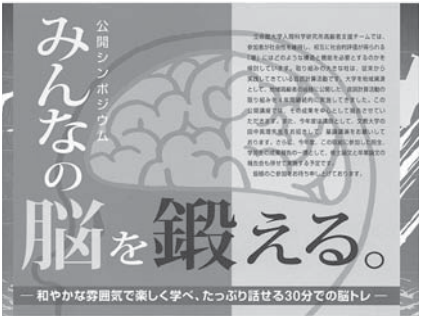
表 1-1.　サポーターの人数

	地域	学生・院生	運営委員	合計
2006	11	13	8	32
2007	33	12	7	52
2008	43	13	9	65
2009	39	23	8	70
2010	45	22	7	74
2011	35	24	7	66
2012	43	23	8	74
2013	53	22	8	83
2014	43	20	6	69
2015	47	13	7	67

Ⅱ　高齢者支援の取り組みが、人間科学研究所のプロジェクトの一つとして位置づけられたこともあり、公開講座を実施しました。

【公開講座のパンフレット】

2012 年度実施の公開講座



Ⅲ　学習活動参加者や地域サポーターは、「市民しんぶん」を通して、募集しました。

【サポーター募集を伝える「市民しんぶん」】

07年 4月15日(北区)市民しんぶん

音読・計算で

脳を鍛えるトレーニング サポーターを募集

年をとるにつれて「物忘れ」がひどくなるのは、脳の機能の衰えが考えられます。立命館大学高齢者プロジェクトでは「文章を声に出して読む」、「簡単な計算をする」というトレーニングを継続的にすることが、低下していく脳を鍛えて元気な脳を取り戻すために、良い影響を及ぼすという実証的な成果を挙げています。

昨年度から大学内でどなたでも参加できる"脳を鍛える"トレーニング教室を開催。今年度は北区役所と共同で地域でも教室を開きます。大学内と地域で、サポーターとして熱意を持ってお手伝いをしてくださる方を募集します。

★立命館大学でのサポート★

毎週、月・水・金の午前中に行う音読と簡単な計算のサポートと運営の協力をしていただきます。

★地域でのサポート★

衣笠学区と大将軍学区で実施する地域の方に対するトレーニング（※）のサポートについてご協力をお願いします。

＜説明会＞

日時　4月21日（土）午前10時～正午

場所　立命館大学衣笠キャンパス創思館3階311室

問合せ

●立命館大学人間科学研究所（高齢者プロジェクト）

☎075-838-3558、FAX075-824-5、Eメール ninge n@st.ritsumei.ac.jp

●北区役所総務課企画・広報担当

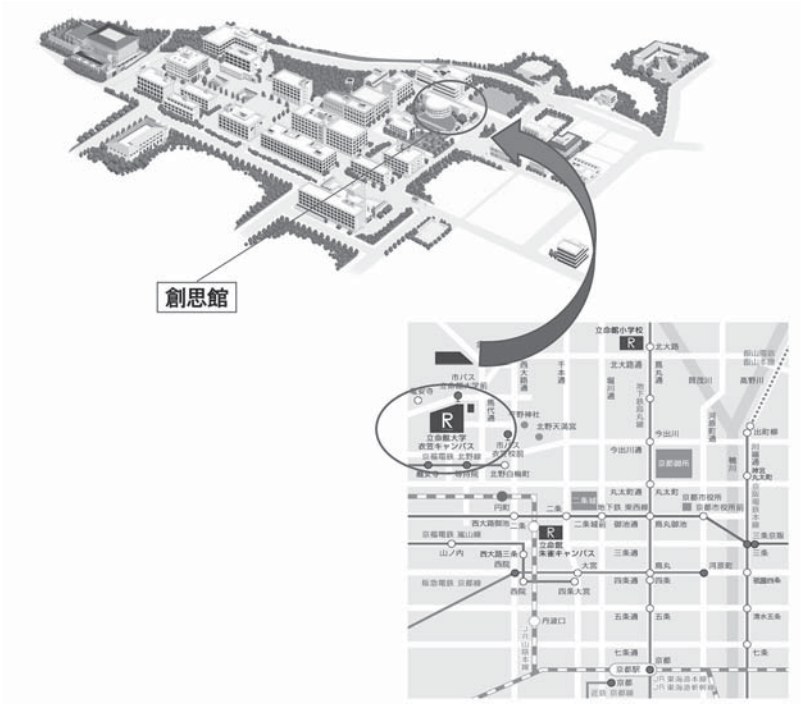
☎492-1199、FAX492-0388

※地域の安心・安全ネットワーク形成事業「北区 脳とからだを鍛えるプロジェクト」

衣笠学区、大将軍学区において、高齢者の皆さんが、お住まいの地域で心身ともに健康に暮らしていくことを目的とした取組を準備中です。

立命館大学やサポーターの皆さんのご協力の下で脳のトレーニングを行い、脳を活性化させるとともに、筋力トレーニングを実施し、介護予防や運動機能の向上を図ります。

Ⅳ　高齢者支援の取り組みは立命館大学衣笠キャンパスがメイン会場で実施されました。日々の学習活動を実施したトレーニングルームやプロジェクト室があったのは、「創思館」という建物でした。【衣笠キャンパスと、活動場所となった創思館の位置】



Ⅵ　高齢者支援の取り組みでは、日々の学習活動のほかに、下記のような年間行事がありました。

【年間行事】

1）学習者説明会

参加希望者を対象として、学習を始めるに当たって、主催者側の体制やルール、背景にある理論の紹介を行いました。学習の意味、特に脳科学の立場から「音読・計算」活動の効果を紹介することで、学習に対する意欲を持ってもらうことに重点が置かれました。説明会の後は、具体的な学習方法を説明して、模擬的に体験していただきました。時期は毎年５月に実施しました。

2）サポーター説明会と研修

「音読・計算」学習活動においては、学習をサポートしてもらうことが必要となります。「満点ですよ」「100 点ですよ」と励まされて「また次回も行こうかな」という動機づけとなって、学習が継続されるはずです。学習が継続する大きな条件は、良いサポートを受けることではないかと考えました。「やらされている」という感覚ではなく、「こんな楽しいことをもっともっとやっていきたい」という思いを持っていただくために、サポーターの役割は大きかったようです。上から目線で接するのではなく、高齢者のことを良く理解して、一緒に活動する立場であることを自覚していただくために、４日間のサポーター研修がありました。時期は毎年５月に実施しました。

3）交流会

「音読・計算」学習活動は、60 ～ 90 名の学習者と約 40 名の地域サポーター、それに運営委員、学生サポーターなど、合計すると 100 名を越える大所帯となります。それぞれが異なる曜日に分かれて大学に来られるため、顔の知らない学習者やサポーターもいます。交流会では、同じ「学びの友」として、顔みしりになっていただくために、食事を取りながら、おしゃべりをしていただきました。また、交流会は、余興として、自分達が持っている特技を披露していた

だく場となりました。歌、踊り、謡い、詩吟、ハンドベル、手品等が行われました。久しぶりに芸を披露する方も、それを鑑賞する方も、どんどん笑顔になられることが印象的でした。交流会は、12 月の冬休み前に行うので、クリスマス会を兼ねる事もありました。場所は、衣笠キャンパス内の学生食堂を利用しました。

交流会の様子（2014 年度の交流会）
諒友館食堂で開催された交流の風景。　右側は有志によるハンドベル演奏の披露

4）修了式・卒業式

毎年 6 月から始まる学習は、年を越えて 2 月に修了します。1 年間のまとめとして修了式 を開いて修了証書が渡されます。また 1 年間学習支援を継続したサポーターには認定証が渡されます。この活動では、幸い、サポーターの数が多いので、学習者の皆さんは、1 年を超えて継続して参加していただくことが可能でした。しかし、新規の学習者にも参加を促すために、3 年を終えると、学習者は「卒業」して頂くことになりました。そして、修了式と並行して開催する卒業式で、卒業証書をお渡ししました。3 年間学習を続けられたことで学習が習慣化したであろうこと。さらに、OB・OG 会（創生の会）が発足しましたので、そこへ活動の場が移行することにより、社会的な関わりも維持されるのではないかと期待しました。

会場は、基本的に創思館カンファレンスルームを使用しました。式では、修了証書、卒業証書、サポーター認定証書の授与と続きました。それぞれの代表の方には、一言ご挨拶を頂きました。後半はゲストの先生方の講演をお願いし

ました。また、この活動の中で行った調査や実験に基づく、卒論、修士論文の報告がなされることもありました。2015 年の卒論発表では、「私たちの存在がこんなにも研究に役立っている」と感動された学習者もおられたようです。

修了式・卒業式の風景

代表者である吉田先生から，証書類をお渡ししている場面

移動がたいへんな方には，証書類を運営委員がお席までお持ちした

Ⅶ　高齢者支援の取り組みの中で調査や実験を実施して、多くの学部生が卒業論文を、また院生が修士論文を作成して巣立っていきました。下記には、その題目を列挙します。

【学生による研究発表　（卒業論文・修士論文）2008 年―2014 年】

2014 年

1. 大学にて実施される音読計算活動を通した参加者の心理的変化
   －学習者と大学生間のかかわりに着目して－
2. サークルテスト及び時間的展望文章完成法を用いた高齢者の時間的展望
   －大学生と比較して－
3. 健康高齢者の学習活動終了後における認知機能活性化の効果の変化について

2013 年

4. 各発達段階における対人恐怖心性の特徴
5. 高齢者の「ことわざ」における知恵
   －聞き取り調査による大学生との比較－

6. 慰霊行動とそれに関わる意識との関係についての研究

2012 年

7. 情動的写真が高齢者のエピソード記憶に及ぼす影響
　－加齢に伴う情動調整の発達の観点から－
8. 場所弁別課題における大学生と高齢者の脳血流量の違い
9. 高齢者への学習療法による自尊感情と日々の感情や考え方の変化の検証

2011 年

10. 高齢者における感動体験の想起による気分変化の検討
　－想起される感動体験の性質にも着目して－
11. 新しい埋葬法から見る死生観　－中年期以降の語りを通して
12. 生活リズムと睡眠の関係、その加齢による変化

2010 年

13. 高齢者の日常生活におけるコミュニケーション機能の変化に関する効果の検討
　－学習療法による介入から－
14. 高齢者の日常生活でのコミュニケーションにおける学習療法による変化
　－ソーシャルスキル・コミュニケーション行動・回想による検討－
15. 音読・計算課題の遂行期間の違いが高齢者の認知機能にもたらす効果
　－ NIRS を用いた検討－
16. 老年期における生きがいと活動、回想との関連
17. 記憶内容およびその特徴とバンプの形成について

2009 年

18. 高齢者における機器利用に対する動機づけ　－利益・コストの認知から－
19. 在宅高齢者の自己開示と孤独感の関係

2008 年

20. 音読・計算課題の反復学習継続者の実行機能検査遂行時の前頭前野の活動

21. 音読・計算課題の遂行による地域在宅高齢者の前頭前野機能とアパシー傾向の変化

22. 地域在宅高齢者における展望的記憶の評価
－音読・計算課題の反復遂行による効果の検討まで－

高齢者支援の取り組みで、作成された卒業論文や修士論文は、公開講座として、広く、学習者、サポーターや、地域住民にもフィードバックされました。これは、2011 年の報告会の例です。

公開企画

高齢者プロジェクト 研究報告会2011

2010年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択を受けて，立命館大学人間科学研究所高齢者支援チームは今年度も地域高齢者を対象とした実践的活動を行いました。この実践の中で，学部生，大学院生が研究活動を行い，成果を卒業論文・修士論文としてまとめました。その成果をご協力いただいた皆様や地域の皆様に公開したいと存じます。奮ってご参加くださいますよう，ご案内申し上げます。なお，事前のお申し込みは不要です。

日時：2011 年 3 月 11 日（金）13:30～15:00

場所:立命館大学衣笠キャンパス　末川記念会館　地下 1Ｆ大講義室

入場無料、事前申込み不要

① 栗田祐輝「高齢者における感動体験の想起による気分変化の検討
－想起される感動体験の性質にも着目して－」

② 津幡法胤「新しい埋葬法から見る死生観
－中年期以降の語りを通して－」

③ 渡里寿伸「生活リズムと睡眠の関係、その加齢による変化」

主催：立命館大学人間科学研究所

お問い合わせ先：立命館大学人間科学研究所事務局

TEL：075-465-8358　FAX：075-465-8245　EMAIL:ningen@st.ritsumei.ac.jp

研究業績リスト

【学術論文】

（1）吉田甫・孫琴・土田宣明・大川一郎　(2014). 学習活動の遂行で健康高齢者の認知機能を改善できるか：転移効果から　心理学研究　85（2), 130-138.

（2）吉田甫・古橋啓介・土田宣明　(2014). 健康高齢者に対する認知訓練の現状と課題 : 訓練の転移　高齢者のケアと行動科学 19, 76-89.

（3）吉田甫・孫琴・古橋啓介・土田宣明・高橋伸子・石川眞理子・坂口佳江・小田博子・吉村昌子・大川一郎　(2014). 高齢者に対する認知訓練の効果性：立命館大学での 10 年間の試み　高齢者のケアと行動科学 19, 2-15.

（4）吉田甫・古橋啓介・土田宣明　(2014). 健康高齢者に対する認知訓練の現状と課題 : 訓練の転移　高齢者のケアと行動科学 19, 76-89.

（5）孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎［他］(2013). 3 年間にわたる健康高齢者の記憶の変化について：作業記憶と短期記憶を中心とした検討　立命館人間科学研究 26, 1-8.

（6）孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎　(2013). 3 年間にわたる健康高齢者の認知機能の変化：抑制機能および関連する認知機能を中心とした検討　高齢者のケアと行動科学 18, 51-60.

（7）孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎　(2012). 学習活動の遂行によって認知症高齢者の抑制機能を改善できるか　高齢者のケアと行動科学 17, 2-13.

（8）孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎　(2010). 高齢者を対象とした SRC 課題における復帰抑制（2): 不適合条件を中心とした検討　立命館人間科学研究 21, 1-8.

（9）孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎　(2010). 3 年間での認知症高齢者の変化過程に関する介入研究：MMSE と FAB を中心とした検討　立命館人間科学研究 20, 31-39.

（10）孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎　(2009). 健康高齢者の抑制機能及び

関連する認知機能に関する研究：日本と中国における比較研究の視点から 立命館人間科学研究 19, 103-110.
(11) 吉田甫・玉井智・大川一郎・土田宣明・田島信元・川島隆太・泰羅雅登・杉本幸司 (2009). 音読と簡単な計算の遂行による介入が認知症高齢者の日常生活動作におよぼす影響 立命館人間科学研究 18, 23-32.
(12) 吉田甫・片桐惇志・大川一郎［他］(2008). 高齢者に対する計算と音読活動の介入が前頭葉機能の活性化におよぼす影響 --NIRS による検討 立命館人間科学研究 16, 117-125.
(13) 孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎 (2008). 高齢者を対象としたSRC課題における復帰抑制 立命館人間科学研究 16, 13-20.
(14) 高橋伸子・吉田甫・大川一郎・土田 宣明［他］(2007). 地域に暮らす高齢者を援助するサポートネットの組織化およびその発展 立命館人間科学研究 14, 143-150.
(15) 大川一郎・吉田甫・土田宣明 (2007). 認知症の高齢者に対する音読・計算課題の遂行が認知機能におよぼす影響 高齢者のケアと行動科学 12 (2), 28-37.
(16) 孫琴・吉田甫 (2007). 高齢者における抑制機能に関する研究 同一性ベースと場所ベースの抑制機能を中心として 高齢者のケアと行動科学 12 (2), 10-19.
(17) 玉井智・大川一郎・吉田甫・土田宣明 (2005). 高齢者を対象とした生活活動評定尺度（施設版）の開発 立命館人間科学研究 9, 1-12.
(18) 吉田甫・大川一郎・土田宣明［他］(2005). 音読・計算による学習療法の試み：コミュニケーション要因の検討 高齢者のケアと行動科学 10 (2), 53-56.
(19) 吉田甫・川島 隆太・杉本 幸司［他］(2004). 学習課題の遂行が老年期痴呆患者の認知機能に及ぼす効果 老年精神医学雑誌 15 (3), 319-325.
(20) 吉田甫・土田 宣明・大川 一郎 (2004). 音読・計算課題の遂行とコミュニケーションの要因が老年期痴呆患者に対する影響に関する研究：予備的分析 立命館人間科学研究 7, 109-118.

外国での学会発表

2010 年

1. Shuzhen Lin, Ichirou Ohkawa, Hajime Yoshida, Noriaki Tsuchida, Qin Sun, Mariko Ishikawa, Masako Miyata, Nobuko Takahashi, Chiyoji Hakoiwa, Yoshie Sakaguchi, Masako Yoshimura, Keisuke Furuhashi, Takashi Kawanabe, Yoshihiro Nakamura (2010/9/28). Effects of Cognitive Training Activity on Community-dwelling Older Adults Pariticipants' Psychological Well-being. the IPA 2010 International Meeting, in Santiago de Compostela, Spain.

2008 年

2. Noriaki Tsuchida, Hajime Yoshida, Ichiro Okawa, Qin Sun, Nobuko Takahashi, Mariko Ishikawa, Masako Miyata, Yoshie Sakaguchi, Chiyoji Hakoiwa, Yoshihiro Nakamura, Keisuke Furuhashi (2008/7/24). Inhibitory Function in the Stimulus-Response Compatibility Task and Aging. International Congress of Psychology, Berlin-Germany.
3. Yoshida Hajime, Furuhashi Keisuke, Ookawa Ichiro, Tsuchida Noriaki, Nakamura Yoshiro, Qin Sun, Takahashi Nobuko, Ishikawa Mariko, Miyata Masako, Hakoiwa Chiyoji, Sakaguchi Yoshie (2008/7/23). Effect of performing arithmetic and reading aloud on memory tasks in the elderly. International Congress of Psychology, Berlin-Germany.

2007 年

4. Hajime Yoshida, Qin Sun, Ichiro Ookawa, Noriaki Tuchida, Nobuko Takahashi, Mariko Ishikawa, Masako Miyata, Yoshie Sakaguchi, Chiyoji Hakoiwa, Yoshihiro Nakamura, Miyuki Tanaka (2007/10/15). Effect of reading aloud and arithmetic calculation on inhibitory function in the elderly. International Psychogeriatric Association. Osaka, Celebration 25 years of IPA and Psychogeriatrics.

国内での学会発表

2015 年

1．北原康子・高橋伸子・石川眞理子・坂口佳江・土田宣明・吉田甫　2015 高齢者学習活動に伴うコミュニケーションの特徴と機能　日本心理学会第 79 回名古屋大学大会抄録集 ,

2014 年

1．孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎（2014/3/21）. 健康高齢者における学習活動の持続効果に関する研究－持続年数を中心とした検討－. 発達心理学会 , 第 25 回京都大学大会抄録集 ,

2013 年

2．孫琴・吉田甫・土田宣明・高橋伸子・石川眞理子・坂口佳江・吉村昌子・小田博子（2013/11/9）. サポータの社会的スキルと失敗傾向に関する介入研究－学習活動を支えることによる検討－ . 対人援助学会第 5 回立命館大学大会，PS-4.

3．戸名久美子・吉田甫・土田宣明・孫琴・渋谷静英・池田愛子・岡本麻美・神澤良子・竹田奈央子・坪田明子（2013/9/1）. 高齢者におけるマス計算作業時間の調査―50 マス計算課題を通して－. 日本老年行動科学会，第 16 回愛媛大会，抄録集 P55.

4．孫琴・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・坂口佳江・吉村昌子・小田博子・吉田甫・土田宣明・大川一郎（2013/9/1）. 学習活動が健康高齢者の日常生活に及ぼす影響 . 日本老年行動科学会 , 第 16 回愛媛大会，抄録集 P61.

5．坂口佳江・孫琴・高橋伸子・小田博子・石川眞理子・宮田正子・吉村昌子・吉田甫・土田宣明・大川一郎（2013/9/1）. 学習活動における新規学習者の日常生活の変化について . 日本老年行動科学会 , 第 16 回愛媛大会，抄録集 P59.

6．孫琴・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・坂口佳江・吉村昌子・小田博子・吉田甫・土田宣明・大川一郎（2013/9/1）. 学習活動が健康高齢者の日常生活に及ぼす影響 . 日本老年行動科学会 , 第 16 回愛媛大会，抄録集 P61.

7．坂口佳江　(2013/10/24). 中核市保健センター保健師が地区活動として取り組んだ認知訓練の活動 . 日本公衆衛生学会第 72 回（三重大会）大会抄録集 P425

2012 年

8．孫琴・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・坂口佳江・吉村昌子・小田博子・吉田甫・土田宣明・大川一郎（2012/10/14). 学習活動を支える サポータの日常生活の変化について . 日本老年行動科学会 , 第 15 回筑波大学大会，抄録集 P47.

9．石川眞理子・坂口佳江・孫琴・高橋伸子・宮田正子・吉村昌子・小田博子・吉田甫・土田宣明・大川一郎（2012/10/14). 学習活動を支える新規サポータに関する研究 . 日本老年行動科学会 , 第 15 回筑波大学大会，抄録集 P40.

10. 宮田正子・吉村昌子・孫琴・高橋伸子・石川眞理子・坂口佳江・小田博子・吉田甫・土田宣明・大川一郎（2012/10/14). 学習活動を支える継続サポータに関する研究 . 日本老年行動科学会 , 第 15 回筑波大学大会，抄録集 P41.

11. 孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・吉村昌子・坂口佳江（2012/9/12). 健康高齢者の認知機能への介入－遅延効果－ . 日本心理学会第 76 回専修大学大会，1EVB31，P953.

2011 年

12. 吉村昌子・孫琴・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・坂口佳江・吉田甫・土田宣明・大川一郎（2011/11/12). 学習活動の遂行による高齢者の日常生活への変化について－ 3 年間の活動を終えた高齢者を中心とした検討－ . 対人援助学会第 3 回立命館大学大会，PS-3.

13. 宮田正子・孫琴・高橋伸子・石川眞理子・吉村昌子・坂口佳江・吉田甫・土田宣明・大川一郎（2011/11/12). 学習活動による高齢者およびサポータの変化について－サポータからの視点を中心とした検討－ . 対人援助学会第 3 回立命館大学 , PS-2.

14. 坂口佳江・孫琴・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・吉村昌子・吉田甫・土田宣明・大川一郎（2011/11/12）. 3 年間学習活動の遂行による認知障害を持つ高齢者の変化について . 対人援助学会第 3 回立命館大学大会，PS-1.
15. 戸名久美子・濱口洋行・吉田甫・土田宣明・孫琴・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・吉村昌子・坂口佳江・津島健一郎・河岸かおり・中村嘉宏（2011/10/8）. レビュー小体型認知症様の幻視に起因する問題行動が減少した症例 . 日本老年行動科学会第 14 回青森大会，抄録集 P32.
16. 石川眞理子・孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎・高橋伸子・宮田正子・吉村昌子・坂口佳江（2011/10/9）. サポータにおけるコミュニケーションの変化に関する研究－学習活動を支えることによる－ . 日本老年行動科学会第 14 回青森大会，抄録集 P59.
17. 孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎・宮田正子・吉村昌子・坂口佳江・石川眞理子・高橋伸子（2011/10/9）. 日常生活における失敗傾向に関する研究－学習活動を支えるサポータを中心とした検討－ . 日本老年行動科学会第 14 回青森大会，抄録集 P60.
18. 高橋伸子・孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎・宮田正子・吉村昌子・坂口佳江・石川眞理子（2011/10/9）. 学習活動を支えるサポータに関する研究－抑うつ性およびアパシー傾向を中心とした検討－ 日本老年行動科学会第 14 回青森大会，抄録集 P58.
19. 高橋伸子・孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎・箱岩千代治・石川眞理子・坂口佳江・宮田正子・吉村昌子（2011/9/15）. 健康高齢者の記憶変化に関する 3 年間の追跡研究―短期記憶と作業記憶を中心とした検討―. 日本心理学会第 75 回日本大学大会，1EV105, P1024.
20. 孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎・宮田正子・吉村昌子・石川眞理子・箱岩千代治・坂口佳江・高橋伸子（2011/9/15）. 健康高齢者の記憶と抑制に関する介入研究―3 年間の音読・計算活動を中心とした検討―. 日本心理学会第 75 回日本大学大会，1EV106, P1025.
21. Lin Shuzhen・大川一郎・吉田甫・土田宣明・孫琴・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・坂口佳江・吉村昌子・箱岩千代治・中村嘉宏（2011/9/15）. 在宅高齢者を対象にした音読・計算活動の影響について―主観的評価におけ

る変化の検討―日本心理学会第 75 回日本大学大会，1EV115, P1034.

2010 年

22. 孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎（2011/3/25）. 3 年間にわたる健康高齢者の認知機能に関する研究－抑制機能および関連する認知機能を中心とした検討－ . 発達心理学会 , 第 22 回東京学芸大学大会抄録集 , P1-033.
23. 宮田正子・孫琴・高木千都・高橋伸子・坂口佳江・吉村昌子・石川眞理子（2010/11/6）. 健康高齢者のコミュニケーションに関する介入研究 . 対人援助学会第 2 回立命館大学大会，PS- 11.
24. 吉村昌子・孫琴・高木千都・坂口佳江・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子（2010/11/6）. 学習活動における健康高齢者の日常生活への影響 . 対人援助学会第 2 回立命館大学大会，PS- 10.
25. 石川眞理子・孫琴・高木千都・高橋伸子・宮田正子・坂口佳江・吉村昌子（2010/11/6）. 健康高齢者の人あたりの良さに関する介入研究 . 対人援助学会第 2 回立命館大学大会，PS- 9.
26. 林東珍・大川一郎・吉田甫・土田宣明・孫琴・石川眞理子・宮田正子・高橋伸子・箱岩千代治・坂口佳江・吉村昌子・川那部隆司・中村嘉宏（2010/9/13）. 在宅高齢者の健康行動の動機に関する研究－音読・計算活動に対する健康信念モデルに基づく検討－ . 日本心理学会第 74 回大阪大学大会，3AM113, P1138.
27. 高橋伸子・孫琴・箱岩千代治・吉田甫・土田宣明・大川一郎・石川眞理子・宮田正子・坂口佳江・吉村昌子（2010/9/4）. 健康高齢者における大活字本の借り出し状況（読書志向・量）と音読・計算活動との関連から . 日本老年行動科学会第 13 回鹿児島大会，抄録集 P49.
28. 坂口佳江・孫琴・石川眞理子・吉田甫・土田宣明・大川一郎・宮田正子・高橋伸子・吉村昌子・箱岩千代治（2010/9/4）. 健康高齢者の音読・計算活動の効果と出席回数との関連について . 日本老年行動科学会第 13 回鹿児島大会，抄録集 P48 .
29. 林東珍・大川一郎・吉田甫・土田宣明・孫琴・石川眞理子・宮田正子・高橋伸子・箱岩千代治・坂口佳江・吉村昌子・川那部隆司・中村嘉宏（2010/9/4）.

在宅高齢者を対象にした音読・計算活動の影響について－日常生活面における変化の検討－. 日本老年行動科学会第 13 回鹿児島大会，抄録集 P47.
30. 孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎・宮田正子・吉村昌子・箱岩千代治・坂口佳江・高橋伸子・石川眞理子（2010/9/4）. 健康高齢者の認知機能に関する介入研究―音読・計算活動の参加年数を中心とした検討―. 日本老年行動科学会第 13 回鹿児島大会，抄録集 P46.
31. 坂口佳江（2010/10）. 地域における脳活性化の事業―地域高齢者における「音読・計算」を中心とした活動の紹介― 日本公衆衛生学会第 69 回総会、0618-168P370

2009 年

32. 高橋伸子・石川眞理子・坂口佳江・宮田正子・孫琴・渡里寿伸・吉村昌子（2009/11/7）. 大学を資源とした地域との関わりについて―高齢者プロジェクトの実践報告―. 対人援助学会第 1 回立命館大学大会，PS-8.
33. 孫琴・箱岩千代治・石川眞理子・宮田正子・高橋伸子・坂口佳江・吉田甫・土田宣明・大川一郎・古橋啓介・林束珍・川那部隆司・中村嘉宏（2009/8/26）. 加齢に伴う健康高齢者の記憶及び抑制の変化―2 年間の音読・計算課題を中心とした検討―. 日本心理学会第 73 回立命館大学大会，1AM143, P1055.
34. 高橋伸子・孫琴・宮田正子・石川眞理子・坂口佳江・箱岩千代治・吉田甫・土田宣明・大川一郎・古橋啓介・林束珍・中村嘉宏・川那部隆司（2009/8/26）. 健康高齢者の記憶及び抑制に関する介入研究 . 日本心理学会第 73 回立命館大学大会，1AM144, P1056.

2008 年

35. 孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎・中村嘉宏・箱岩千代治・高橋伸子・石川眞理子・宮田正子・坂口佳江（2008/9/19）. 健康な高齢者の記憶・抑制機能に関する介入研究－音読・計算課題の反復遂行による効果検討－. 日本心理学会第 72 回北海道大学大会，1PM009, P1139.